

# 天心が行った浮世絵の時代区分

	天心筆「浮世絵概説」の時代区分 ／文中に挙げている浮世絵師	現在の一般的な時代区分 ／代表的な浮世絵師	作 例
初期	<p><b>元龜～元禄頃(1570～1704頃)</b></p> <p>*戦国時代の社会の混乱期から江戸時代の身分制度が確立される以前の元禄頃までを初期としている。現在では初期風俗画とされる作品群も浮世絵史の流れの中で捉えようとしていることが分かる。</p> <p>／菱川師宣(?～1694)</p>	<p><b>明暦頃～明和元年(1650年代～1764)</b></p> <p>*菱川師宣の登場から錦絵以前。墨摺絵(すみずりえ)、丹絵(たんえ)、紅絵、漆絵、紅摺絵などが制作された。</p> <p>／菱川師宣(?～1694) 鳥居清信(1664～1729) 鳥居清倍(生没年不詳)</p>	 <p>菱川師宣 「見返り美人図」 元禄前期</p>
中期	<p><b>正徳～文化初期(1711～1804頃)</b></p> <p>*身分制度が確立し、町人階級独自の文化が盛んになったのにあわせ、木版多色摺の技術が生まれ発達した時代を中期とし、浮世絵の全盛期と述べている。</p> <p>／鈴木春信(1725～1770) 鳥居清長(1752～1815) 喜多川歌麿(1753～1806) 鳥文斎栄之(1756～1829) 歌川豊国(1769～1825)</p>	<p><b>明和2年～寛政期(1765～1800頃)</b></p> <p>*鈴木春信による錦絵(木版多色摺)の創始から、寛政期に至る浮世絵の全盛期。</p> <p>／鈴木春信(1725～1770) 鳥居清長(1752～1815) 喜多川歌麿(1753～1806) 東洲斎写楽(生没年不詳)</p>	 <p>喜多川歌麿「高名三美人」寛政4～5年頃</p>
後期	<p><b>文化以降(1804頃～)</b></p> <p>*寛政の改革頃から明治にかけて社会階級があいまいになった時期を後期とし、社会文化の変化に伴い浮世絵の画題も風景などに広がったとしている。</p> <p>／葛飾北斎(1760～1849) 歌川広重(1797～1858) 歌川国芳(1797～1861)</p>	<p><b>寛政期以降(1800頃～)</b></p> <p>*寛政期を境に美人画、役者絵という二大潮流が後退し、風景画や花鳥画が新たな主題となった時代。</p> <p>／葛飾北斎(1760～1849) 歌川広重(1797～1856) 歌川国芳(1797～1861)</p>	 <p>葛飾北斎「富嶽三十六景 凱風快晴」 天保2～5年</p>